

地元施策としてのマツタケの保続について

岡崎宮林署 熊崎 繁夫

1. はじめに

当、担当区部内の国有林は、2団地、1,185 haが犬山市に所在し、全域が自然休養林に指定されている。名古屋市から30km圏内で、交通も至便なことから、国有林内を東海自然歩道が通過し、又隣接する明治村等、民間観光施設等も影響して、年間25万人余の入込者があり、森林レクリエーションの場としての効用は発揮し得るが、反面、山火事被害等の不安が非常に多くなる。

山火事等、緊急事態の対応は、地域住民の協力を得なければならないことが多いために、常日頃から円滑な対境関係の必要性を痛感している。都市に近いこの地方は、林業に対する関心がうすく、地域社会が国有林に依存する機会も少ないことから地元とのつながりがうすれがちであるが、担当区部内に隣接する部落はそれぞれに、森林愛護組合を組織して、野営場運営、地元特産品の販売等の事業を持っている。当署としてもこの組合等の運営事業としての、要望に答え毎年マツタケを売払っているが、近年発生量が激減してゆく傾向にあり憂慮している。

そこで今回、地域社会と国有林の協調関係を更に充実させる一方策として、マツタケの現状と、今後の見通しを含め、次のような概況調査を行ったので発表する。

2. マツタケの生態

マツタケについては、古くから研究が進められているが、今なお、不明部分が多い。(表-1 参照)

3. マツタケ生産量の推移

マツタケ収穫量の変遷について現状認識を深めるため、過去20年間について、全国と犬山、八曾国有林における推移を調べてみた。全国発生量は、昭和32年 100 に対し52年は8 となり、犬山、八曾では6 と、いずれも減少している。(表-2 参照)

4. マツタケ発生量の減少傾向の原因

表2が示している、激減の原因について、文献、地元経験者等の意見を総合し、現地踏査した結果、次のようなことがいえる。

昭和30年代前半から、燃料革命や、建築材の変遷等がきっかけとなり、マツの相対的価値が低下したために、マツ林に人手が入らなくなったことに起因すると推定される。

すなわち、

- (1) 従来部落住民の人達が、唯一の燃料として、落枝、落葉、小芝等、かき集めていたことにより、必然的に、マツの細根が地表に近ずきマツタケの発生しやすい状態となっていたが、現在はこれ等の腐よう層が深くなっている。
- (2) 人手の入らなくなった、マツ林の下層には、下草や、灌木類が進入し、繁茂したために、採光通気が悪くなり、各種の微生物類が住みつき、マツタケ菌は、次第に衰退した。
- (3) 伊勢湾台風以降、風倒被害、松毛虫被害等により、マツ林も、若令林が多くなってきたことと近年の松食虫被害等による、発生適木の減少、老化がみられる。

5. 気候条件について

マツタケの、毎年の豊凶差は、気候条件に左右されることが大きいとされていることから、販売業務の参考資料としての目的もあり、最近3か年間の、降水量、気温、湿度と、実際の発生量との関係について調査した。又実際の発生量については、踏査、聞込、市場への出廻り状況等から判断すると、53年中作、54年比較的自作、55年不作と云う結果である。(表一3参照)

(1) 降水量について

降雨量と発生量については、菌糸の発育旺盛期である、4～6月、9～10月の降雨量に関係が大きく、特に9月の雨量が「300mm以上は豊作、200～300mmは中作、100mm以下は不作」と云う試験結果が発表されている。ただし降雨日数にも関係があり一時に大量の降雨があっても効果がなく毎日10mm程度が適当と云われている。54年の降雨量は、比較的多く、各月平均していることからこの適雨量説に一致した。

(2) 気温、湿度について

気温、湿度についても、発生量との因果関係は大きく、4～11月までの間、気温、湿度とともに急変がなく、前年より高いとき、マツタケ発生量も増える傾向があると云われているが、ほぼこの説に一致する。

6. マツタケ保続に対する施業及び収穫の予想について

前述した、減少原因等、現状を踏まえて、現実林分を「シロ」発達に導き、保続のできる、林分環境条件をつくることを前提にして今後の収穫量を予想してみた。(表一4参照)

(1) 収穫見込量について

- ア 令級毎の発生量は、林令20～25年目から、食用できる雑キノコに混って、マツタケが豊作年では、部分的に発生すると予想されるが、本表では6令級で、ha当り、3kgから見込んだ。
- イ 発生最多の時期は、林令45～50年生頃と推定されることから、10令級で30kgを見込んだ。
- ウ 12令級の林分においては、現実林分の発生箇所において、特別施業地と無施業地について、

発生量試験を行った結果、ha当り15kgを見込んだ。(表-5参照)

(2) 特殊施業について

ア 地かきは、落枝、落葉の腐蝕層を、熊手、レーキ等を用いて、かき除くことによってマツの細根を地表に近づける。

イ 特殊除伐については「シロ」林分の環境条件は、広葉樹との、2段林が理想とされていることから、下草刈払、枝払、等に合せて、2段林に近づけ採光、通気の調整を図る。

(注) この特殊施業は、地元森林愛護組合等、買受人において実行することとし、それに要する経費は、売払価格算定因子で、調整を図ることを、前提に検討した。

この収穫予想表から、結論として、マツタケが減少あるいは、将来消滅の不安もある実情からこの程度の施業を実行することとなれば、将来保続もでき、収入も得られることが期待できると思われる。

7. ま と め

以上はこの問題にとり組んだ初年度であり不十分であるが、マツタケの現状と、保続について考えてみた。

今後も引き続いて、

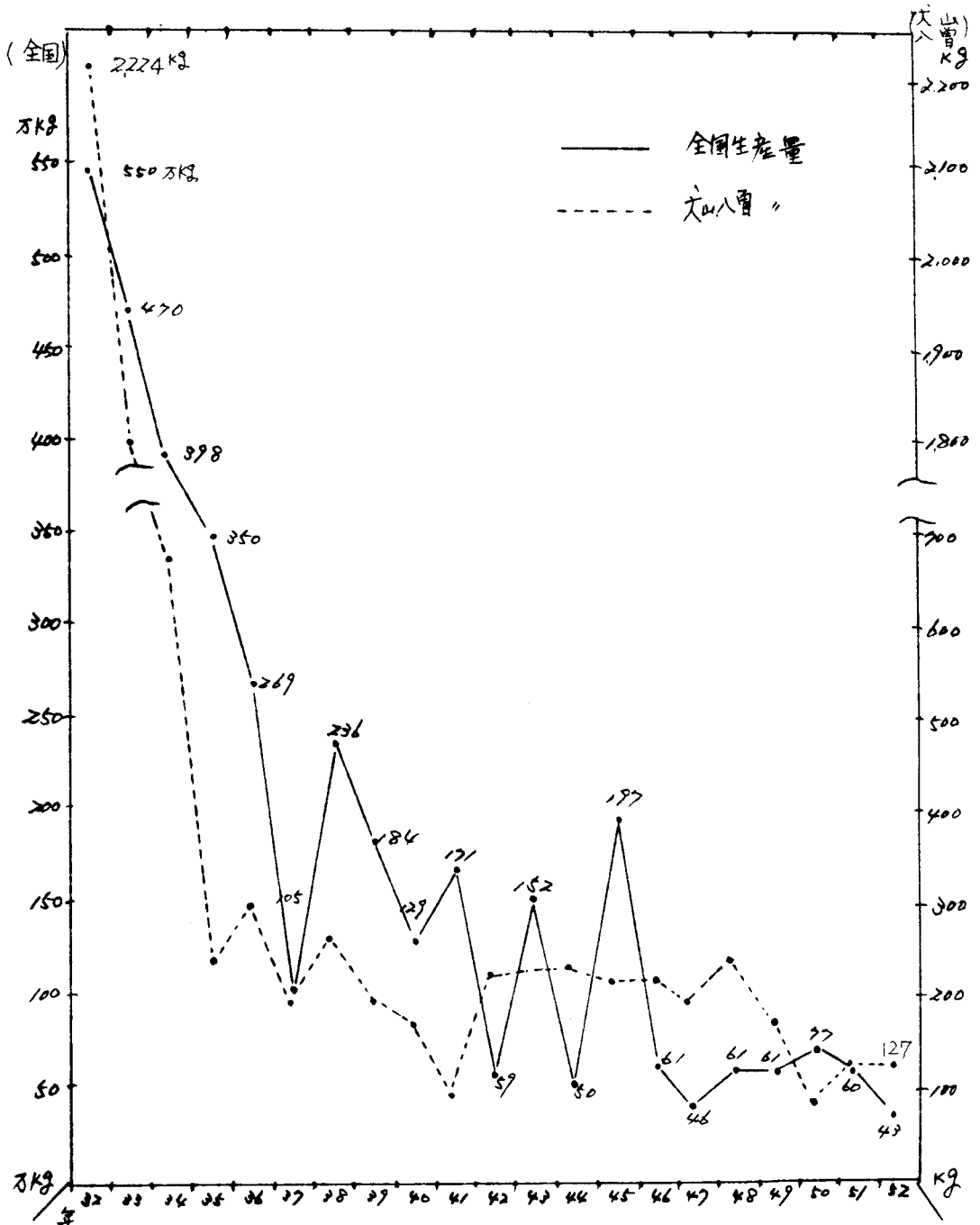
- (1) 地元地域等との、円滑な協力関係を主眼におき、地元森林愛護組合等と協同し、保続施業に対して有効的な施業方法の検討等を行い、適正な国有林野の管理体制の確立を図る。
- (2) マツタケの新規発生箇所及び面積の継続調整等を行う。
- (3) 気象関係の継続調査等を行い、売払処分の際し、適確な収穫予想量の把握と、売払評定に用いる市場価格推定方法の確立を図る。

これ等を実行することによって更に地域社会との、つながりを深めてゆきたいと思う。

引用文献等

マツタケ	マツタケ研究懇話会編
マツタケ日記	浜田 稔 著
林業と薬剤	林業薬剤協会

表-2. 松茸全国生産量 犬山・八曾生産量の推移



(注) 全国生産数量は「林業と薬劑」No. 73より引用

表-3. 3カ年間気象実績調査表

月別	総降水量			最低平均温度			平均温度		
	53年	54	55	53年	54	55	53年	54	55
1	23.0	53.0	25.0	0	1.1	1.0	69.2	71.4	71.8
2	53.5	121.5	11.0	-1.7	2.5	-1.1	67.6	69.9	62.2
3	67.5	110.0	120.0	2.0	4.2	3.8	60.7	60.1	58.7
4	124.0	210.5	153.0	2.1	9.2	9.6	66.6	64.2	60.6
5	21.0	142.0	218.5	14.2	13.6	14.5	69.9	71.0	65.2
6	222.0	209.5	187.0	19.6	22.4	21.1	75.7	74.7	72.1
7	145.5	157.5	272.0	24.5	23.3	22.7	72.4	70.5	74.5
8	77.5	95.0	266.5	24.2	24.3	24.4	71.8	69.9	70.4
9	219.0	225.5	122.5	20.8	22.3	19.5	77.2	78.8	70.6
10	106.0	147.0	177.5	12.6	14.8	14.4	74.9	71.4	69.8
11	65.5	107.0	87.5	6.8	9.9	9.7	71.6	74.2	69.4
12	27.5	29.0	27.5	2.3	4.2	2.7	70.6	69.2	68.1

- - - 53 (不作)
 - - - 54 (不作)
 - - - 55 (不作)

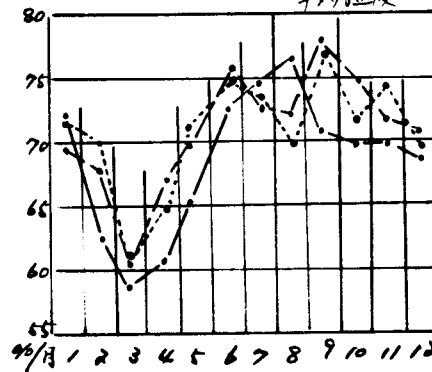
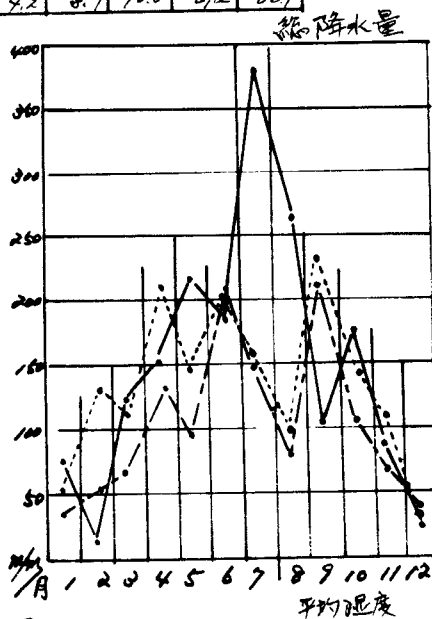
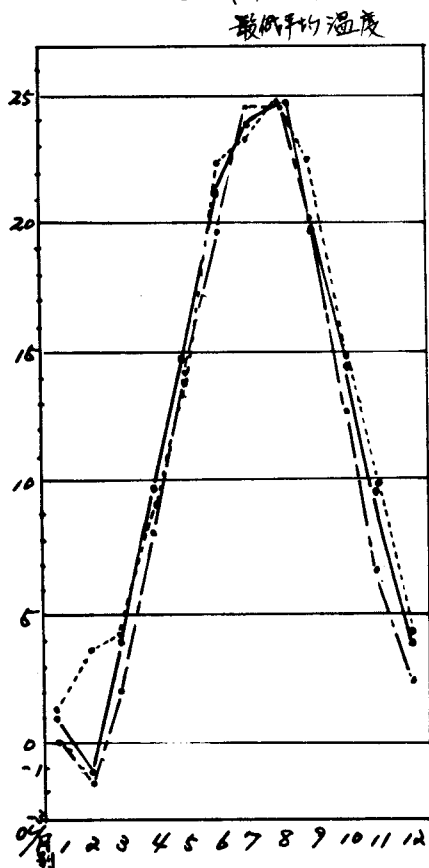


表-4. マツタケ収穫予想表

令級	シロ面積	収穫見込量(kg)				特殊作業(支出)										収支差	
		ha当り		総量		シロ面積	地かさ				特殊除伐				計		
		ha	kg	kg	ha		単位当り	単価	金額	単位当り	単価	金額	人数	金額			
		kg	円	円	円	人	円	円	人	円	円	人	円				
IV	5.01	-	-	-	5.01	2.0	10	"	75	10	5	"	88	15	113	△113	
V	3.19	-	-	-	3.19	"	6	"	45	"	3	"	88	9	68	△68	
VI	5.10	3	22	15.3	110	5.10	"	10	"	75	"	5	"	88	15	113	△3
VII	9.30	5	36	46.5	225	9.30	"	19	"	143	"	9	"	68	28	211	124
VIII	12.25	15	108	20.8	1223	12.25	"	25	"	188	"	12	"	90	27	278	1045
IX	5.97	25	180	149.3	1075	5.97	"	12	"	90	"	6	"	45	18	135	940
X	2.79	30	216	23.7	603	2.79	"	6	"	45	"	3	"	23	9	68	525
XI	11.50	25	180	287.5	2070	11.50	"	23	"	173	"	12	"	90	25	263	1807
XII	10.47	15	108	157.1	1131	10.47	"	21	"	158	"	10	"	75	31	233	898
XIII	8.27	7	50	57.9	417	8.27	"	17	"	128	"	8	"	60	25	188	229
計	73.85			981.1	7064	73.85		149		1120		73		550	222	1670	5394

1. この表は、1年間を対象として収穫見込量と特殊作業全費について概計した。

2. 「シロ」面積は、現実林分の中で現在発生している個所及今後発生を予想される個所で「シロ」発達に等しい保続可能な個所を令級毎に集計した。

3. 収穫見込量の販売単価は、55年度当署売払予定価kg当り7,200円で試算した。

4. 工期については、現地工期調査の結果、地かさはha当り2人工、特殊除伐はha当り1人工程度の作業が可能である。日額は今年度臨時作業員単価7,500円で試算した。

表-5. マツタケ発生量調査表

マツタケ発生量調査表 (XII合板材分)												
採取 月 日	S. 53		S. 54		S. 55		平均					
	特殊 施業地	無施業地	特殊 施業地	無施業地	特殊 施業地	無施業地	特殊 施業地	無施業地				
	67" 0.20HA	70" 0.20HA	67" 0.20	70" 0.20	67" 0.20	70" 0.20	67" 0.20	70" 0.20				
	本数	重量	本数	重量	本数	重量	本数	重量	重量			
10. 8		8					1	50	167	8		
10	4	190							63.3			
13	6	307	2	95			6	290	2	90		
15				3	145				48.3	-		
16	8	380	4	170			10	490	6	280		
18			8	370	3	160			123.3	53.3		
20	10	440	7	329	14	615		11	575	5	230	
22				22	960	11	480			320.0	160.0	
24	13	620	5	230					206.7	76.7		
25				19	805	7	310	5	220	3	123	
27	11	430	4	170					143.3	56.7		
28				16	760	12	580	3	150	2	75	
30	6	250	3	120					83.3	40.0		
31				11	510	8	330	2	90			
11. 3	2	85	1	50					28.3	16.7		
4				7	290				96.7	-		
7				4	170	7	308		56.7	102.7		
10	1	48							16.0	-		
11				1	30				10.0	-		
計	61	2720	26	1174	105	4655	48	2168	38	1805	18	798
HA換算									15.3	kg	6.9	kg